

終戦の日

戦没者追悼行事について

は、8月14日（日）香川県護国神社において、香川県出身の戦没者3万57700余柱及び殉職自衛官18柱の追悼行事を厳粛に執り行いました。今年は新型コロナウイルス感染症第7波の影響も心配されましたが、英霊顕彰の重点事業と位置づけられており、一部行事を縮小して実施しました。

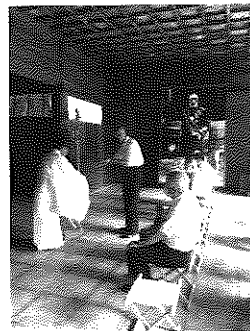
行事は、午前10時から金森宮司による祝詞奏上で開始され、大西会長による祭文奏上、大塚会員による献吟「九段の桜」、玉串奉奠を執り行いました。祭文奏上では明治維新以降、我が国が近代国家の道を歩みつつ戦争を経験した歴史を振り返り、戦後77年の概況総括、近年の国内外情勢や国民意識を踏まえ、今後我が国が進むべき方向等について言及し、英霊に報告されました。



参加者の記念撮影

私は祭文を聞きながら、今日の日本は先の戦争において命を捧げ家族や郷土・国体を守った英霊が期待する国となつて

いるのかを自問自答していました。その後、乃木神社参拝、陸軍墓地を献花参拝し一連行事が終了しました。本行事には、従前会員の大西晏氏（60航）にもご参加戴きました。従前会員の皆様には、末永くご教示頂ければ幸いです。



乃木神社参拝

次に、終戦記念の日に考えさせられたことを追記します。米中新冷戦時代、新型コロナウイルス出現以降ウクライナ情勢をはじめ各種紛争や事故等の報道は、既存メディアに加えSNSの利用急拡大により何が事実・真実なのか見極めが困難になっており、真の情報は自ら分析判断する必要性を痛感しています。

7月に発生した安倍元首相銃撃事件は、全世界が各国リーダーのコメントとともに一斉に報じました。安倍元首相が世界のリーダー的存在であったことを強く印象づけた証でもあり、保守層には根強い安倍再登板が期待されていただけに残念でなりません。一方において事件の真相を再検証することこそ、戦後レジームから脱却し英霊に報いることに繋がるも

のと史料します。事件後、岸田首相は安倍元首相の意志を継ぐコメントを出しましたが、第2次岸田改造内閣は何を意味するのでしょうか。今後、安倍元首相が目指した憲法改正、防衛力強化、経済政策等の動向を見守って行きたいと思えます。全国の偕行会員の皆様は、これらの現状をどうお考えでしょうか。香川県偕行会では毎月の勉強会で意見交換しております。